ONKYO

INTEC
COMPONENT WORLD

インテグレーテッドステレオアンプ

A-909X
取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目　次

特長

■ ハイクォリティ単品設計

■ WRAT（WIDE（ワイド） RANGE（レンジ） AMP（アンプ） TECHNOLOGY（テクノロジー））採用

■ プロセッサー端子／サブウーファー端子装備

■ 6系統入力

■ 超低域を自然に増強するアコースティック・プレゼンス回路

■ ソースダイレクトスイッチ

■ 制振性に優れたDuPont CORIANインシュレーター

■ 高品位な信号伝送を実現する金メッキ入出力端子

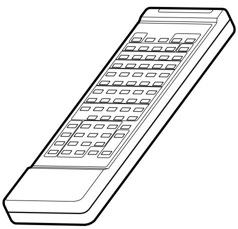
■ システムコントロールリモコン装備

付属品

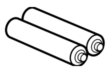
■ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。

（　）内の数字は数量を表わしています。

●リモコン（1）
（RC-415S）



●単3形乾電池(2)

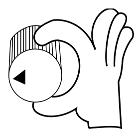


●取扱説明書（本書 1）
●保証書（1）

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒後に改めて電源プラグを入れてください。

♪音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



オーディオ機器の正しい使い方

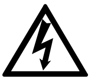
オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

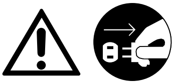




●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない



電源プラグをコンセント
から抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

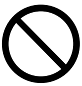
■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

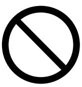
- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
  内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ １００Ｖ以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



- 本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
  次の点に気を付けてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない



水場での
使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔から金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災･感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

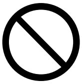
⚠注意

■ 接続について



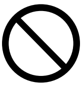
- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意



- 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナスーの向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

接続

INTEC205シリーズのT-405X(チューナー)、C-709X(CDプレーヤー)、MD-105X(MDレコーダー)と接続する場合

システム接続のしかた
(INTEC205 シリーズの接続) → 本取扱説明書10〜13ページをご覧ください。

INTEC205シリーズの組み合わせでご使用になると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めますと、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を入、切しますと接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ご注意 本機の主電源スイッチ(POWER)が切(■ OFF)になっていたり、各機器の接続が正しくないとオートパワーオン機能は動作しません。オートパワーオン機能を働かせる場合は、本機の主電源スイッチが入(▬ ON)になっていること、各機器が正しく接続されていることを確認してください。

ダイレクトチェンジ
CDプレーヤーやMDレコーダーのプレイボタン(▶)、チューナーのプリセットボタン(PRESET)やバンドボタン(BAND)を押すと、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。 → 詳しくは本取扱説明書28〜29ページをご覧ください。

タイマー操作
チューナーでタイマー時間を設定し、タイマー操作や、タイマー録音ができます。 → *詳しくはT-405Xの26〜36ページをご覧ください。

トラック指定CDダビング
演奏トラックを指定してCDからMDへの録音をワンタッチで行えます。

CDシンクロ録音
MDレコーダーを録音待機状態にしておけばCDプレーヤーのプレイ操作のみで録音が自動設定します。

DLA LINK2機能
CDプレーヤーのピークサーチデータによって、MDレコーダーがデジタル録音ボリュームを自動設定します。

→ *詳しくはMD-105Xの取扱説明書をご覧ください。

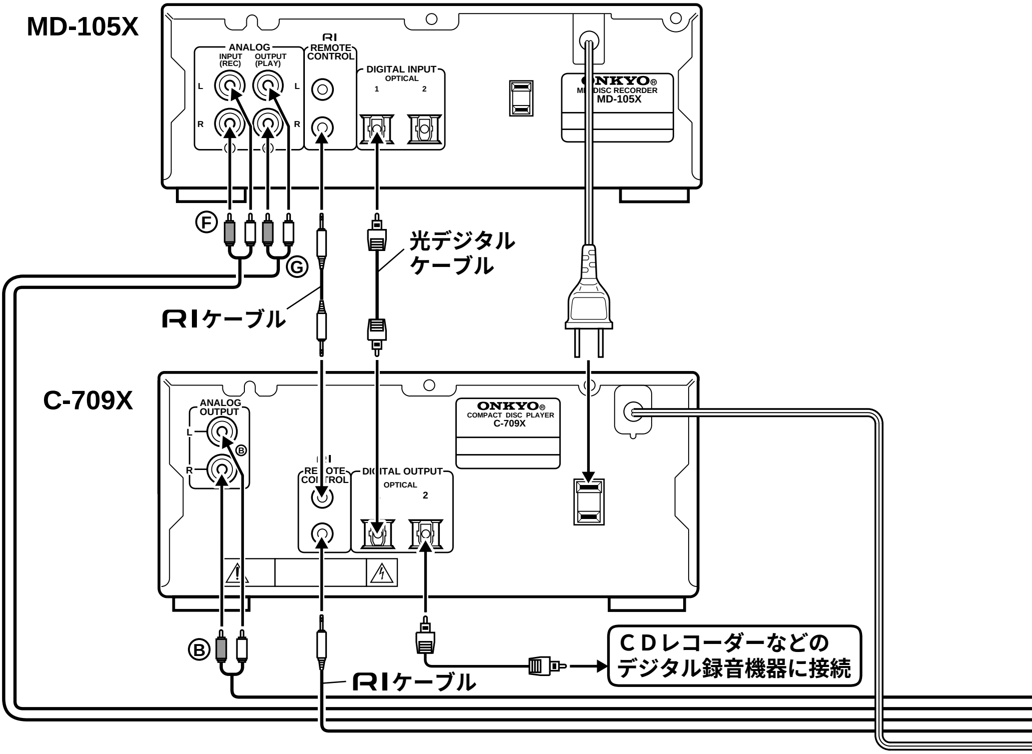
*T-405X、MD-105Xの取扱説明書では、A-907X/A-905X、C-705Xの組み合わせで説明していますが、本機とC-709Xの組み合わせでも操作をすることができます。

ご注意
- 接続がまちがっていると各機能は働きません。10〜13ページを参照しながら正しく、確実に接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合があります。電源コード接続時に他の機器(コンピューターなど)への影響を確認してください。支障が出ると予想される場合は、他のブレーカーから配線されたコンセントを使用してください。
- トラック指定CDダビング、CDシンクロ録音、DLA LINK2機能はCDR-205X(CDレコーダー)にも対応しており、本機とC-709XまたはC-707CHX(CDチェンジャー)との組み合わせで動作します。詳しくはCDR-205Xの取扱説明書をご覧ください。

接続

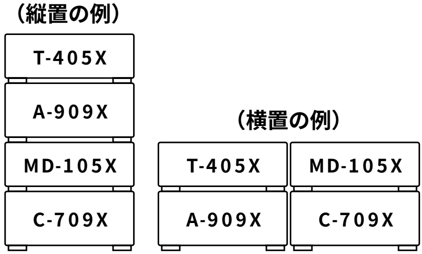
■T-405X（チューナー）のタイマー機能を使用する場合のシステム接続のしかた

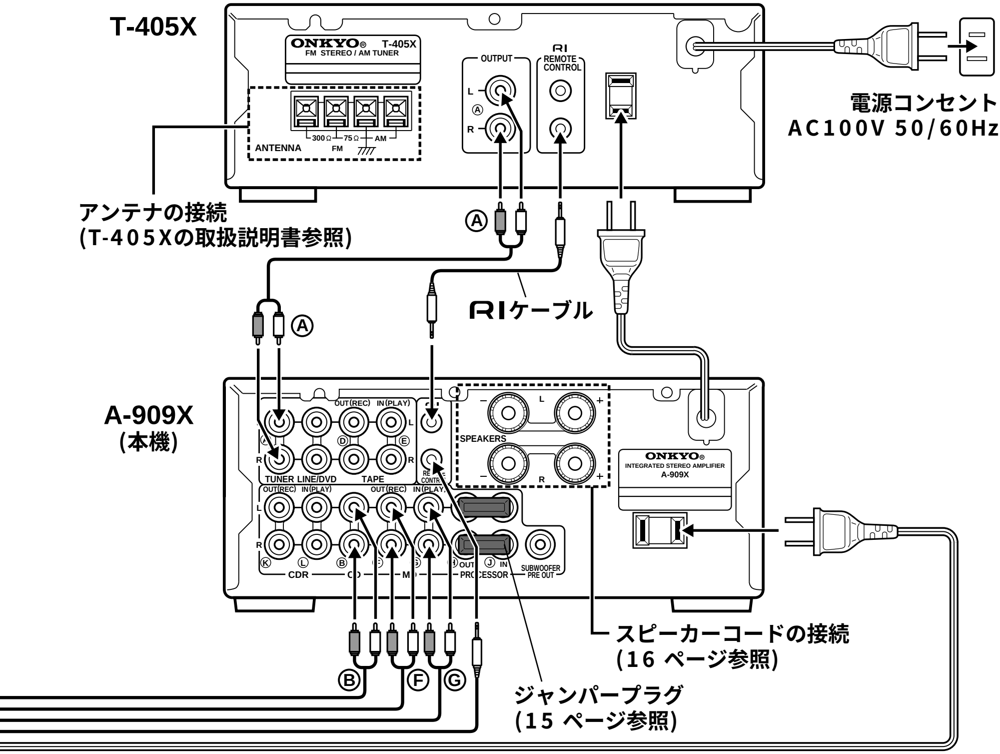
INTEC205シリーズのT-405X、C-709X、MD-105Xと接続する場合



ご注意

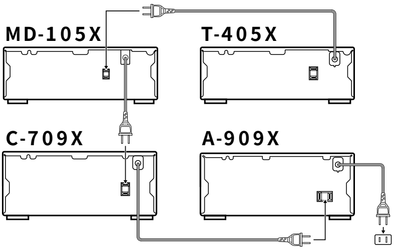
- **すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。**
- 各機器に付属のオーディオ用ピンコード（赤、白プラグ付きピンコード）を使用し、赤いプラグは（R）側に、白いプラグは（L）側に接続します。また、各機器の端子に印刷されている記号（ⒶとⒶ、ⒷとⒷなど）を合わせて接続します。
- 各機器に付属のRIケーブルで、RIリモコン端子の接続を確実に行なってください。接続がされていませんとシステムとしての操作をすることができません。
- 各機器の設置のしかたは、右図のような方法がありますが、CDプレーヤーとMDレコーダーは熱に弱い部品が使用されていますので、アンプの上に置かないようにしてください。
- システム接続をした場合でも、本機の主電源スイッチ（POWER）が入（▬ ON）になっていれば、各機器はそれぞれ単独で電源をオン／オフすることができます。
- 接続については14ページの「一般的な接続のしかた」の項も合わせてご覧ください。





● システム接続で本機がスタンバイ状態(スタンバイインジケーター点灯時)の場合は、本機に接続されている機器にわずかですが待機用の電力が供給されています。節電したい場合など、接続されている機器に待機用電力を供給したくない時は、本機の主電源スイッチ(POWER)を「切」(█ OFF)にしてください。

システム全体の電源を、本機の主電源スイッチ(POWER)で完全に切る場合は、下図のように電源コードの接続をかえてください。

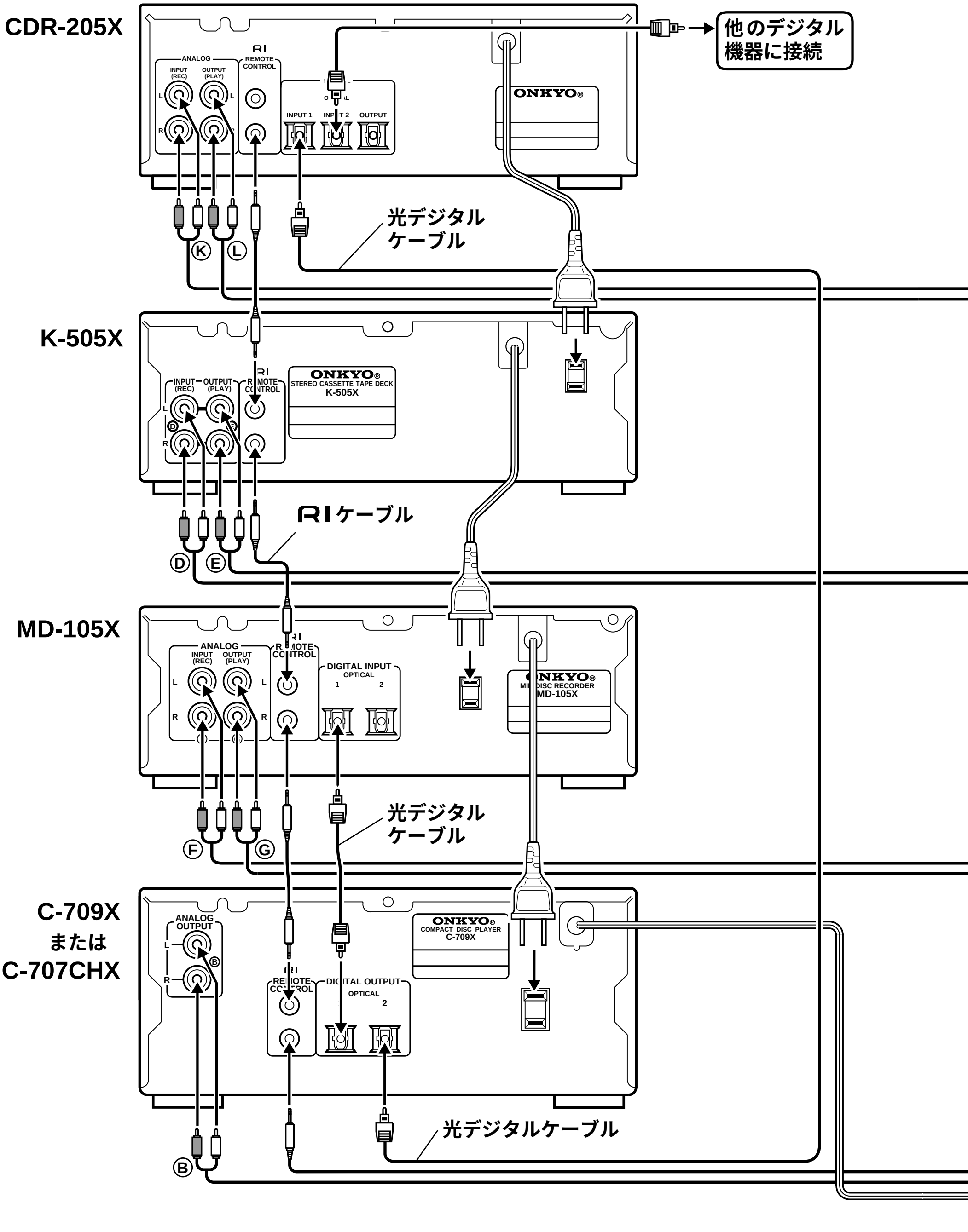


ご注意

システム全体の電源を切ると、T-405X(チューナー)の時計/タイマー演奏などの機能が働かなくなります。時計/タイマー演奏の機能を働かせる場合は、主電源スイッチは「入」(▬ ON)にしておいてください。

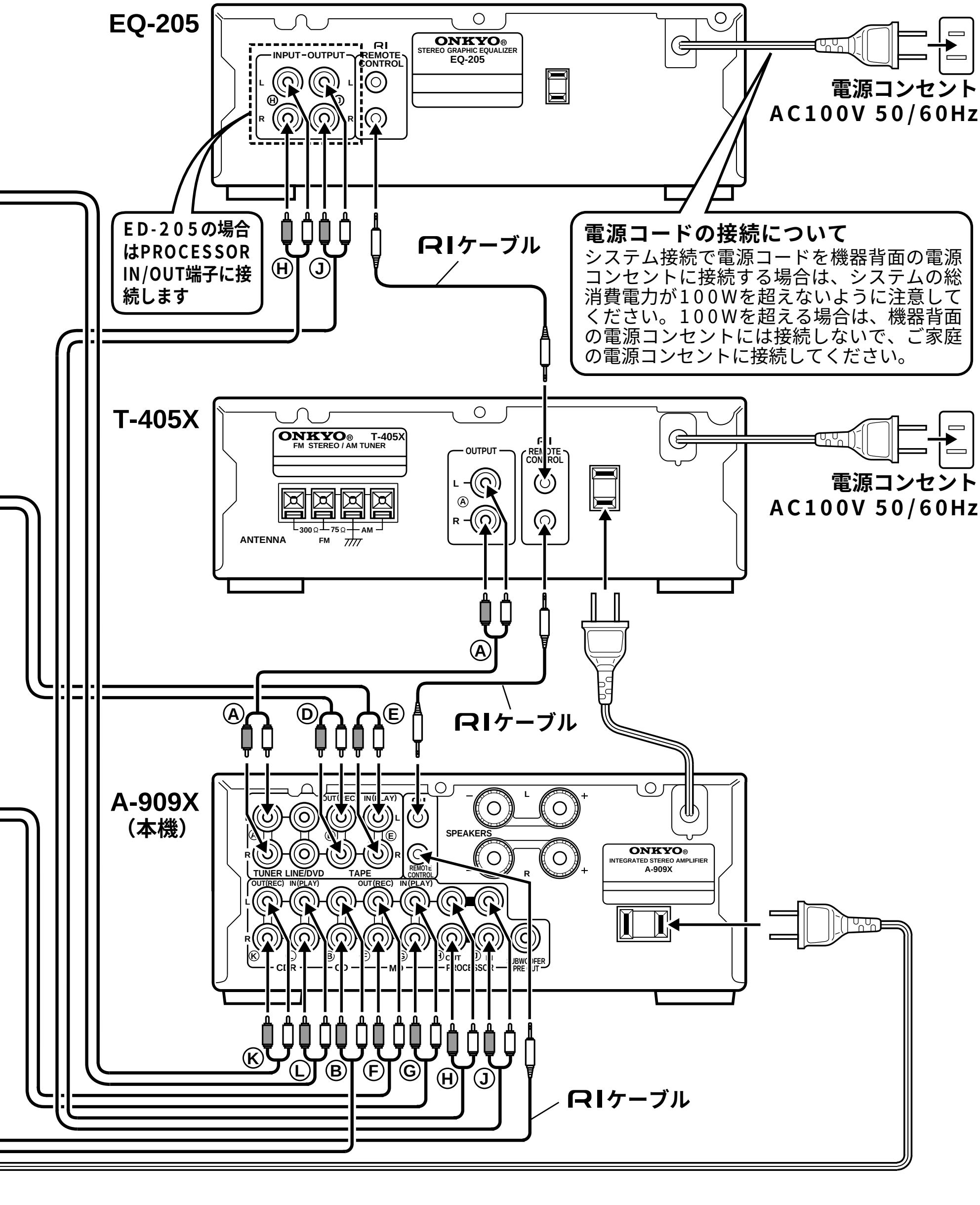
接続

INTEC205シリーズのK-505X（カセットデッキ）、CDR-205X（CDレコーダー）、EQ-205（グラフィックイコライザー）やED-205（AVサラウンドプロセッサー）を使用する場合の接続のしかた



ご注意

本機のプロセッサー端子（PROCESSOR）には、ジャンパープラグが差し込んであります。
EQ-205（グラフィックイコライザー）やED-205（AVサラウンドプロセッサー）などを接続する場合は、ジャンパープラグをはずしてからピンコードを接続してください。（15ページ参照）



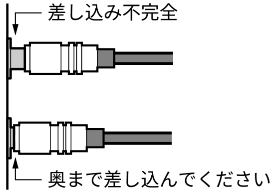
電源コードの接続について
システム接続で電源コードを機器背面の電源コンセントに接続する場合は、システムの総消費電力が100Wを超えないように注意してください。100Wを超える場合は、機器背面の電源コンセントには接続しないで、ご家庭の電源コンセントに接続してください。

■ 一般的な接続のしかた

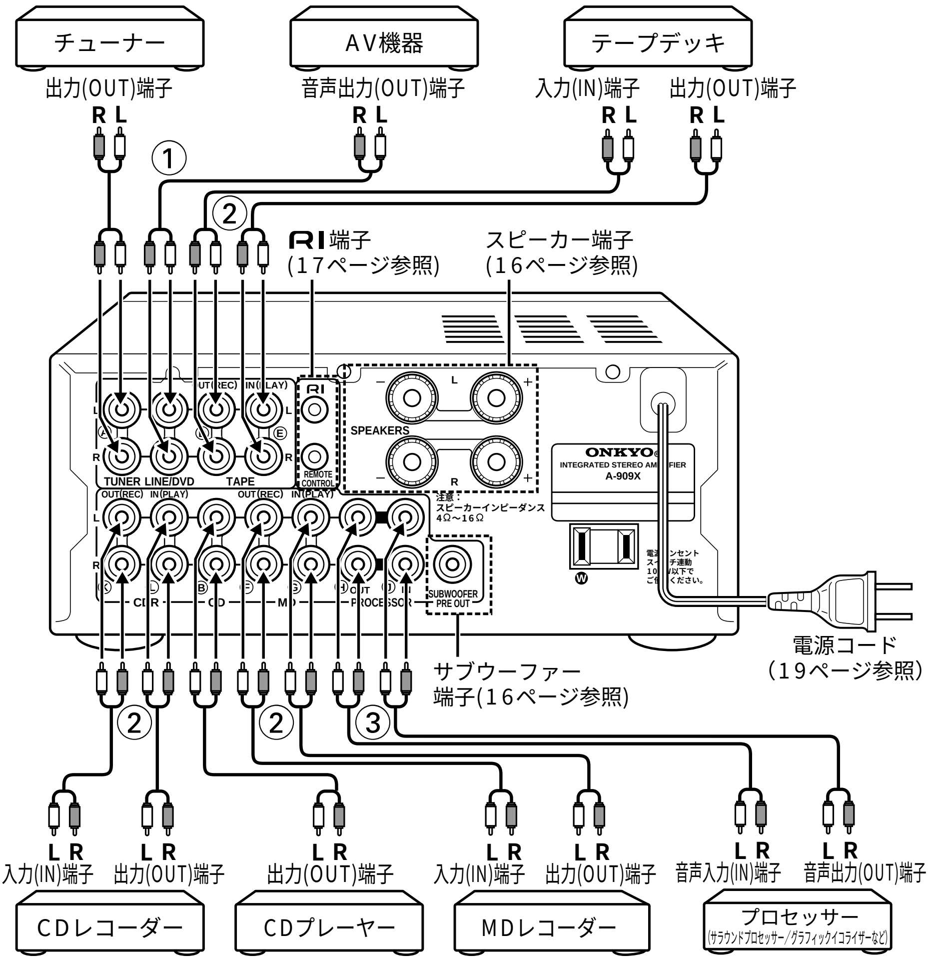
- **すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。**
- 接続は、オーディオ用ピンコード（赤、白プラグ付きピンコード）を使用し、赤いプラグは（R）側に、白いプラグは（L）側に接続します。

他機 L端子へ...白　白...本機 L端子へ
他機 R端子へ...赤　赤...本機 R端子へ





- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。
- オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
- オーディオ用ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねると、音質低下の原因となります。

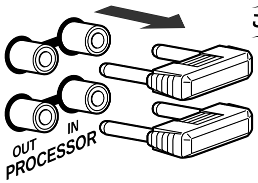


①ライン／DVD端子（LINE／DVD）について
この端子にはCDプレーヤー、チューナー、テープデッキの音声出力やDVDプレーヤー、LDプレーヤー、ビデオなど映像機器の音声出力を接続することができます。

ご注意
この端子にレコードプレーヤーを接続することはできません。
レコードプレーヤーを接続する場合は、市販のフォノイコライザーなどをお買い求めの上、それに添付の取扱説明書にしたがって正しく接続してください。

②CDR端子（CDR）、MD端子（MD）、テープ端子（TAPE）について
左図の接続以外にも、CDR端子（CDR）に2台目のMDレコーダーやテープデッキなどを、同様にMD端子（MD）、テープ端子（TAPE）にも2台目の機器を接続することができます。（ただしRI端子付きのオンキヨー製テープデッキやMDレコーダー、CDレコーダーなどをこのように接続する場合は、誤動作の原因となりますので、RIケーブルは接続しないでください。）

③プロセッサー端子（PROCESSOR）について
工場出荷時、この端子にはジャンパープラグが差し込んであります。
グラフィックイコライザー（EQ-205）やAVサラウンドプロセッサー（ED-205）などを接続する場合は、ジャンパープラグをはずしてからピンコードを接続してください。



ご注意
- はずしたジャンパープラグは、他の端子に差し込まずに大切に保管しておいてください。他の端子に差し込みますと音が出なくなったり、故障の原因となります。
- プロセッサー端子を使用しない場合は、ジャンパープラグを必ずもとの端子にしっかり差し込んでください（左図のようにジャンパープラグを横向きにしてINとOUTを接続）。

■本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続する

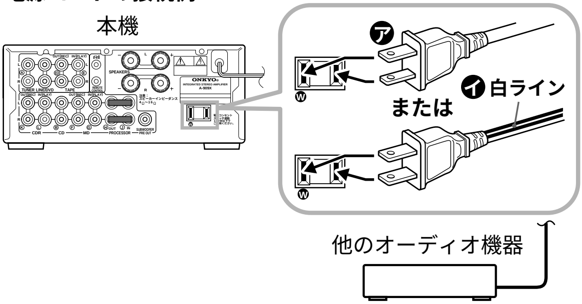
本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。他機の電源スイッチを入れたままにしておけば、本機の主電源スイッチ（POWER）と連動させて他機の電源も入れたり、切ったりすることができます。

接続する前に
- 電源コンセントに接続する機器の総消費電力が100Wを超えないように注意してください。100Wを超える場合は、ご家庭の電源コンセントに接続してください。
- 本機の電源コンセントはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。以下のことに留意してつないでください。（他機の電源コードに極性がない場合はどちらを接続してもかまいません。）

ア 他機の電源プラグに広狭がある場合は、本機の電源コンセントの左側（ⓦマーク側、広い）、右側（狭い）に合わせて接続する。

イ 他機の電源コードの白いラインなどの目印側を本機の電源コンセントの左側に合わせる。

電源コードの接続例

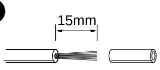


接続

■ スピーカーコードの接続

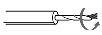
スピーカーコードとスピーカー端子は、以下のように接続してください。

❶



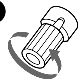
スピーカーコードのビニールカバーの先を芯線を残して15ミリカットする

❷



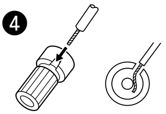
芯線をよじる

❸



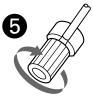
スピーカー端子のつまみを左に回してゆるめる

❹



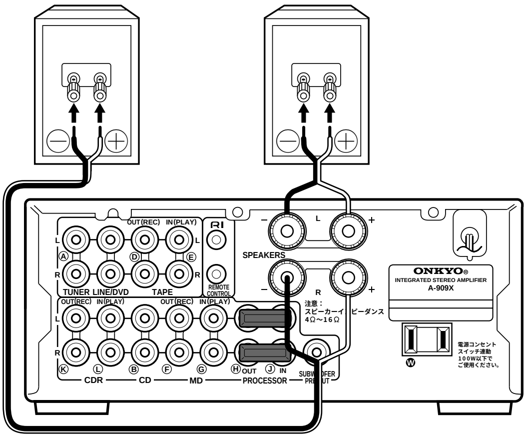
コードの芯線を差し込む

❺



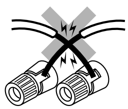
スピーカー端子のつまみを右に回して締める

右スピーカー　　**左スピーカー**



ご注意

- スピーカーコードの芯線部が他の端子や金属部に接触していないか確認してください。
- バナナプラグを使用するときは、スピーカー端子のつまみを締めてから接続してください。
- プラス(+)とマイナス(−)を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが4Ω～16Ωのものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。

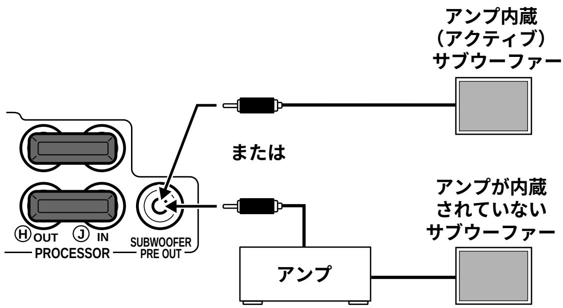


危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。

■ サブウーファーを接続する

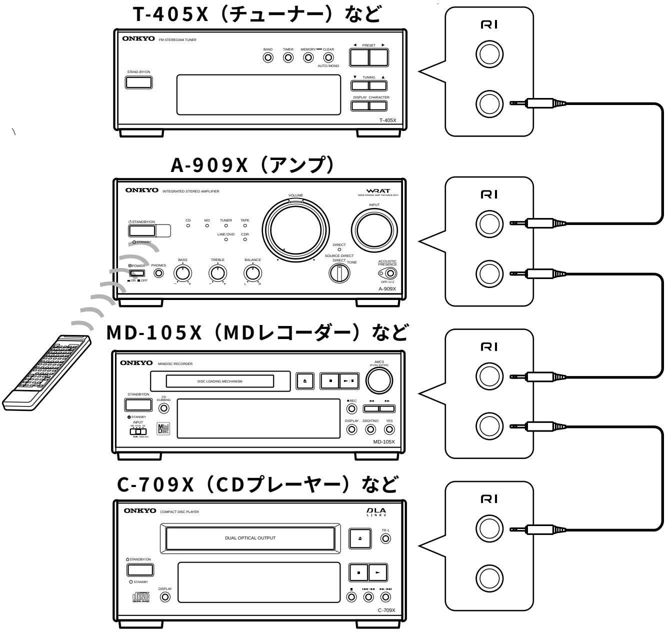
本機のサブウーファー出力は、プリアウトです。サブウーファーはアンプ内蔵のものを使うか、アンプを本機に接続してからサブウーファーをアンプに接続してください。



■ RIケーブルの接続

RI（リモート）端子付きオンキヨー製品でシステムアップした場合、システム機能を使うことができます。

- 操作は本機に付属のリモコンを使用します。
- 本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご参照ください。

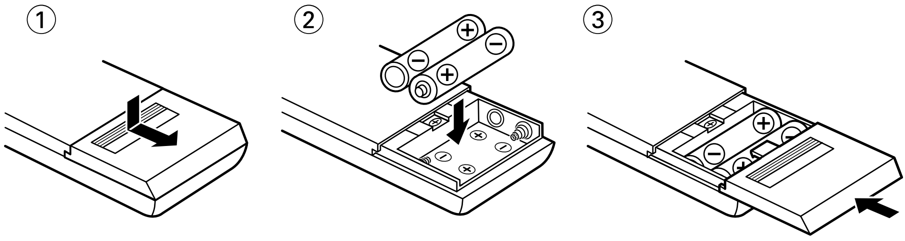


ご注意

- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせた場合のみ使用できます。RI端子付きオンキヨー製品以外とは接続しないでください。
- RI端子の2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

リモコン

■乾電池の入れかたと交換のしかた

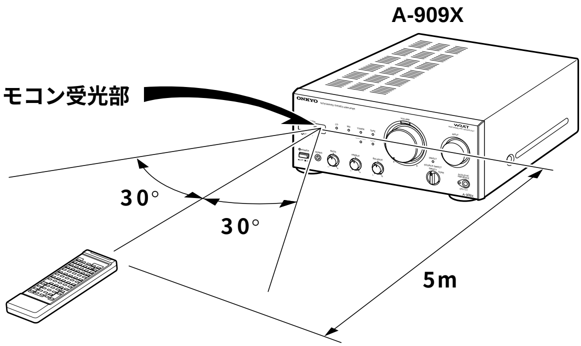


リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。

ご注意

- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

■ リモコンの使い方



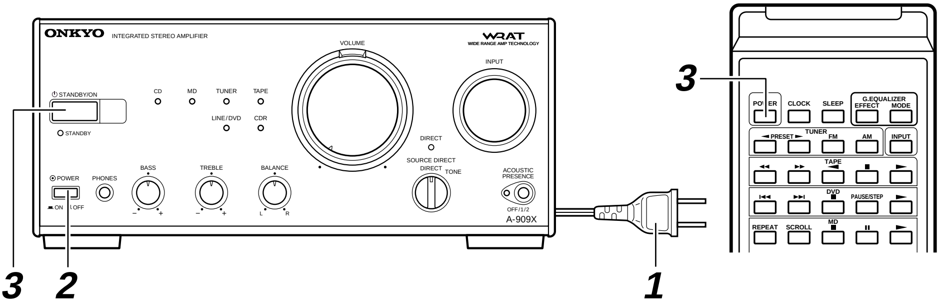
リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

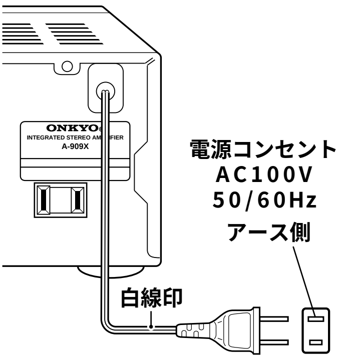
電源を入れる

あらかじめ、音量調整ツマミ(VOLUME)は左いっぱいに回しておいてください。また、音質調整(BASS/TREBLE)やバランス調整(BALANCE)のツマミは中央に合わせておいてください。



リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1



電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

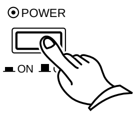
ヒント よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に白線の入っている側を電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。

ご注意 本機を最初にお使いになるときは

本機は主電源スイッチ(POWER)を入(▬ON)の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、手順***2***と同じ状態になります。

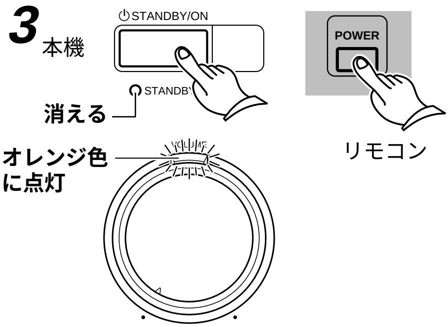
2



主電源を入れる

主電源スイッチ(POWER)を押して入(▬ON)にするとスタンバイインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。もう一度このボタンを押して切(█OFF)にすると主電源が切れます。

3



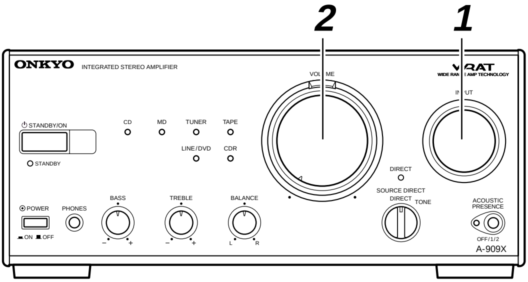
電源を入れる

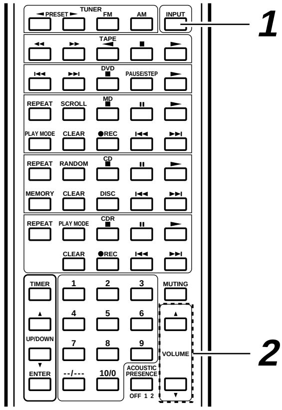
電源ボタン(STANDBY/ONまたはリモコンのPOWER)を押すと音量調整ツマミ(VOLUME)の上のインジケーターがオレンジ色に点灯します。もう一度このボタンを押すと電源がスタンバイ状態になります。

ヒント

回路が安定するまでに5秒程かかります。その間に操作をしても音は出ません。

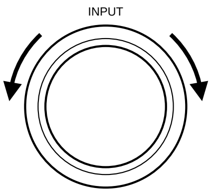
演奏する



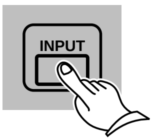


リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1



本機



リモコン

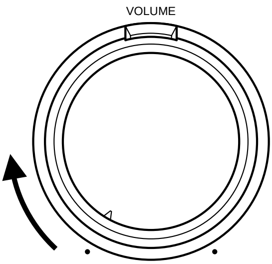
入力切り換えツマミ（INPUT）で聞く機器（ソース）を選ぶ

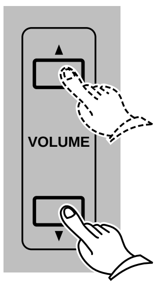
- ＣＤ、ＭＤなど選んだ機器（ソース）のインジケーターが点灯します。
- 左右どちらの方向にもエンドレスに切り換えることができます。

CD ←→ MD ←→ TUNER
CDR ←→ LINE/DVD ←→ TAPE

リモコンのインプットボタン（INPUT）では、右回り方向にのみ順次切り換わります。

2





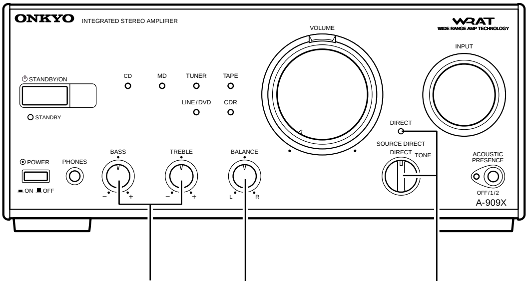
機器の演奏を始め、音量を調整する

- 音量調整ツマミ（VOLUME）でお好みの音量に調整してください。
- 演奏のしかたは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

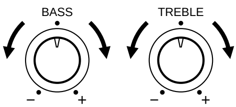
いきなり大きな音を出すとスピーカーが壊れることがあります。音を聞きながら少しずつ右に回して（音量が上がる）調整してください。

■音質や左右の音量バランスを調整する



1　**2**　**ソースダイレクトツマミ/インジケーター（SOURCE DIRECT）**

1

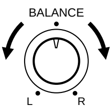


音質の調整をする

- 右に回すと強められ、左に回すと弱められます。
- 通常は中央に合わせておきます。

バス（BASS） .... 低音調整
トレブル（TREBLE） .... 高音調整

2

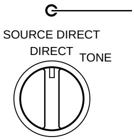


左右の音量バランスを調整する

- 通常は中央に合わせておきますが、スピーカーの置き方や聞く位置によって左右の音量バランスがよくないときに調整します。
- 右に回すと音像は右に移動します。左に回すと左に移動します。

■ソースダイレクトツマミ（SOURCE DIRECT）について

ソースダイレクトとは .... より原音に近いサウンドを楽しむための機能です。



ソースダイレクトインジケーター（ツマミを「DIRECT」の位置にすると点灯します）

ご注意

「DIRECT」の位置では、トーンコントロール機能は調整できません。ただし、バランス調整、アコースティックプレゼンスは機能していますので、お好みに応じて調整することができます。

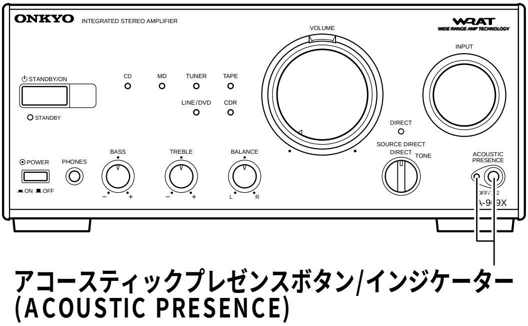
音の信号をソースダイレクトツマミ（SOURCE DIRECT）により、「DIRECT」または「TONE」に切り換えることができます。

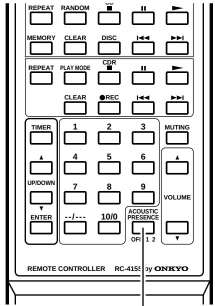
DIRECT： 入力切り換えツマミで選んだソースからの音の信号は「BASS」「TREBLE」コントロール回路を通りませんので、より原音に近いサウンドを楽しむことができます。

TONE： 入力切り換えツマミで選んだソースからの音の信号を「BASS」「TREBLE」で音質調整をすることができます。

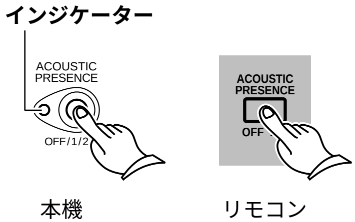
■アコースティックプレゼンスボタン（ACOUSTIC PRESENCE）について

アコースティックプレゼンスとは .... 音楽のリアルな存在感“ プレゼンス ”を高める効果を持つオンキヨー独自の回路です。特にコンパクトサイズのスピーカーではON（1または2）でご使用されることを推奨いたします。





リモコンのボタンは　　で表示しています。

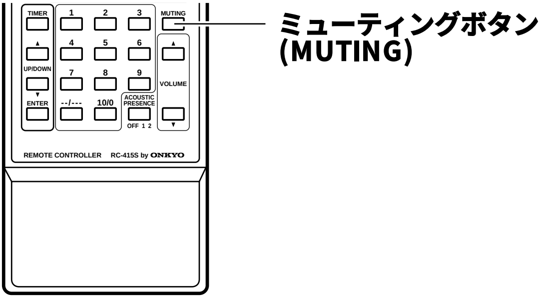


アコースティックプレゼンスボタン（ACOUSTIC PRESENCE）を押すたびに次のように切り換わります。

OFF　インジケーター消灯

1　インジケーターがオレンジ色に点灯
プレゼンス効果が得られます。

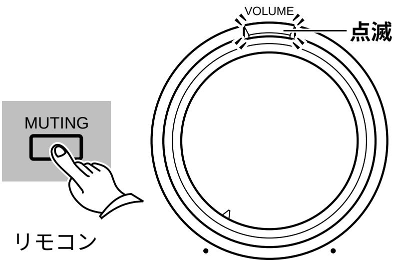
2　インジケーターが緑色に点灯
“ 1 ”よりも強いプレゼンス効果が得られます。



リモコンのボタンは　　で表示しています。

■音量を一時的に小さくする（ミューティング）

リモコンのみの操作です。

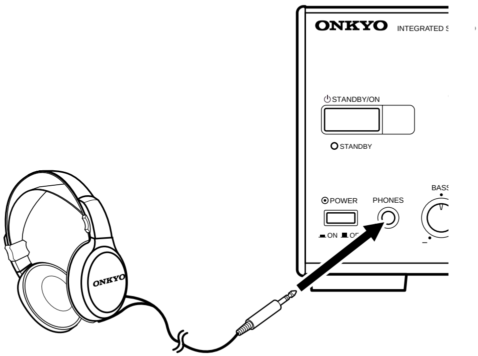


- 音はごく小さくなります。
- 音量調整ツマミ（VOLUME）の上のインジケーターが点滅します。

ミューティングを解除するには

もう一度ミューティングボタン（MUTING）を押してください。また、リモコンの音量調整ボタンを押すか、電源ボタンを押した場合にも解除されます。

■ヘッドホンで聞くには



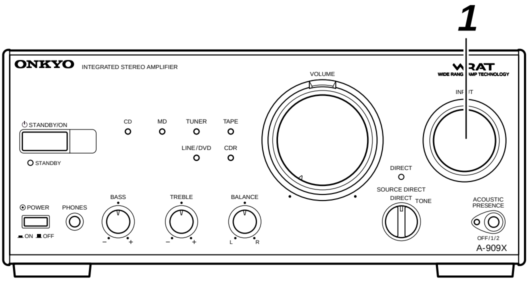
ヘッドホン端子（PHONES）にステレオミニプラグのヘッドホンを接続します。接続するときは、音量を下げてください。

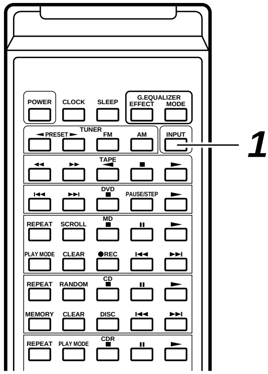
スピーカーからの音が消え､ヘッドホンで音が聞こえるようになります。

録音する

■録音する

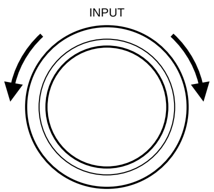
- 録音中にグラフィックイコライザーを操作しても、録音される音に影響はありません。



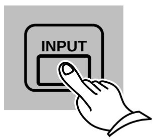


リモコンのボタンは　　で表示しています。

1 録音する機器（ソース）を選ぶ



本機



リモコン

入力切り換えツマミ（INPUT）で、CDやチューナーなど録音したいソースを選びます。

2 録音する機器の準備をする

- MDレコーダーやCDレコーダー、テープデッキなどを録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整はMDレコーダーやCDレコーダー、テープデッキで行ってください。
- 録音のしかたについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

3 録音を始める

1で選んだソースを演奏します。

ご注意

- あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
- 製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることをご確認の上、録音を行ってください。

故障？と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（A-909X）」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

症状	原因	処置
主電源スイッチ（POWER）を押しても電源が入らない。	●電源プラグの差し込みが不完全。	●電源プラグをコンセントにしっかりと差し込み直してください。
スピーカーの左右とも音が出ない。	●スピーカーコードの芯線部が他の端子や金属部に接触している。	●スピーカー端子の接続を点検してください。
	●音量が最小になっている。	●音量調整ツマミ（VOLUME）で適当な音量にしてください。（20ページ参照）
	●ミューティングがはたらいている。	●リモコンのミューティングボタン（MUTING）を押して解除してください。（23ページ参照）
	●ヘッドホンを接続している。	●ボリュームを下げてからヘッドホンをはずしてください。（23ページ参照）
	●プロセッサー端子にジャンパープラグが差し込まれていない。	●ジャンパープラグを差し込んでください。（15ページ参照）
	●CDプレーヤーやMDレコーダーなどから音の信号が入力されない。（音が出ていない）	●CDプレーヤーやMDレコーダーなど接続されている機器をお調べください。
スピーカーの片側しか音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●スピーカー端子の接続を点検してください。
	●バランス調整ツマミが左または右に片寄っている。	●適当な位置にバランス調整ツマミを調整してください。（21ページ参照）
	●プロセッサー端子にジャンパープラグが差し込まれていない。	●ジャンパープラグを差し込んでください。（15ページ参照）
スタンバイインジケーターが点滅している。	●スピーカーコードの芯線部が他の端子や金属部に接触している。	●スピーカー端子の接続を点検してください。
INTEC205シリーズでタイマー演奏をしたが音が出ない。	●音量が最小になっている。	●適当な音量に調整しておいてください。
オーディオタイマーを使用したが電源が入らない。	●オーディオタイマーは使用できません。	●INTEC205シリーズのチューナー（T-405X）のタイマーを使用してください。
リモコンで操作できない。	●電池が消耗している。	●電池を新しいものと交換してください。
	●本機と距離がありすぎる、角度が悪い。	●リモコンは本機との距離が約5m以内、前面パネルとの角度が左右にそれぞれ30°以内で操作可能です。
	●本機との間に障害物がある。	●リモコンの操作場所をずらすか、障害物を取り除いて操作してください。

主な仕様

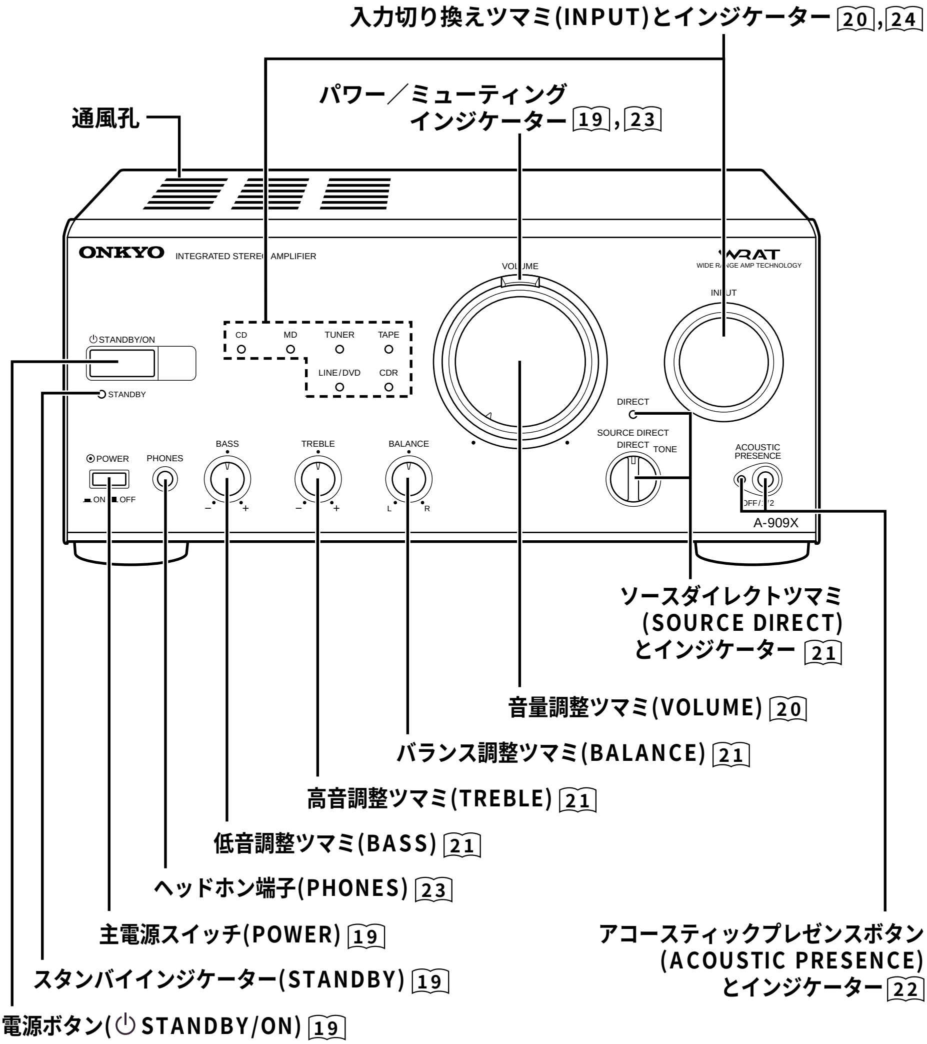
実用最大出力：	CD→SP OUT 4Ω（EIAJ）	29W+29W
定格出力　1kHz：	CD→SP OUT 8Ω 両ch駆動	15W+15W
	CD→SP OUT 4Ω 両ch駆動	21W+21W
ダイナミックパワー：	6Ω	24W+24W
	4Ω	29W+29W
全高調波ひずみ率：	CD→SP OUT 8Ω　1kHz 定格出力時	0.2%
	CD→SP OUT 8Ω　40〜20kHz 定格出力時	0.5%
混変調ひずみ率：	CD→SP OUT 8Ω 両ch駆動	0.2%
ダンピングファクター：	1kHz 8Ω	30
入力感度/インピーダンス：	TUNER、LINE/DVD、CD、MD（PLAY）、CDR（PLAY）、TAPE（PLAY）	200mV/50kΩ
定格出力/インピーダンス：	MD（REC）、CDR（REC）、TAPE（REC）	200mV/2.5kΩ
パワーバンド幅：	IHF －3dB THD 0.2% 8Ω	10〜50kHz
周波数特性：	CD→SP OUT 1W出力時	10〜100kHz/±3dB
SN比：（IHF-A、入力ショート）	LINE/DVD、CD、MD、CDR	100dB
トーンコントロール：	BASS　50Hz	±8dB
	TREBLE　10kHz	±8dB
アコースティックプレゼンス：	1　20.5Hz	+3dB
	82Hz	+3dB
	2　20.5Hz	+3dB
	82Hz	+6dB
ミューティング：		－50dB
電源：		AC100V、50/60Hz
消費電力：		45W（電気用品取締法規格）
外形寸法（幅×高さ×奥行）：		205×91×302mm
質量：		3.5kg

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

各部の名称

■前面パネル

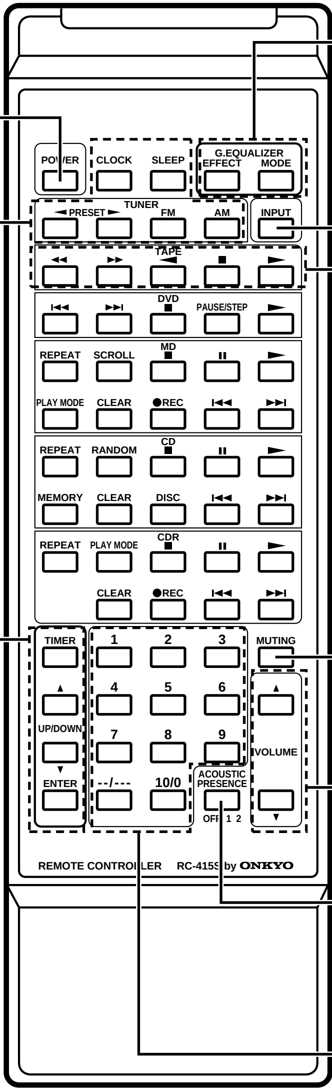
内の表示は詳しい説明のあるページです。



各部の名称

■リモコン（RC-415S）

RI接続を行うと、＊印の付いているボタンが使用できます。
□内の表示は詳しい説明のあるページです。



電源ボタン(POWER)
電源のスタンバイ／オンを切り換えます。19

チューナー操作ボタン＊
CLOCK：現在の時刻を表示します。
SLEEP：スリープタイムを設定します。
◀PRESET▶：プリセットされた放送局を選びます。
FM：FM放送を選びます。
AM：AM放送を選びます。
TIMER：タイマーの設定モードを切り換えます。
UP/DOWN▲/▼：タイマーボタンで選択した項目の設定内容を選びます。
ENTER：タイマーボタンや▲／▼ボタンで選択した内容を確定します。

グラフィックイコライザー操作ボタン＊
EFFECT：グライコ効果をオン／オフします。
MODE：グライコモードを切り換えます。

入力切り換えボタン(INPUT)
聞くソースを選びます。
本機の入力切り換えツマミと同じ働きをします。
20,24

テープデッキ操作ボタン＊
◀◀：テープを早戻しします。
▶▶：テープを早送りします。
◀：B(裏)面を再生します。
■：再生・録音や早送り・早戻しを止めます。
▶：A(表)面を再生します。

ミューティングボタン(MUTING)
一時的に音をごく小さくします。
23

音量調整ボタン(VOLUME)
音量を上げ下げします。本機の音量調整ツマミと同じ働きをします。
20

アコースティックプレゼンスボタン(ACOUSTIC PRESENCE)
アコースティックプレゼンスを切り換えます。22

数字ボタン＊
CD、MDやCDRの選曲に使います。

DVDプレーヤー操作ボタン＊

|◀◀ ：現在のチャプター／トラックの先頭から再生します。

▶▶| ：1つ先のチャプター／トラックの先頭から再生します。

■ ：再生を止めます。

PAUSE/STEP ：再生の一時停止／コマ送りをします。

▶ ：再生を始めます。

MDレコーダー操作ボタン＊

REPEAT：くり返し再生します。

SCROLL：表示が長いとき、右から左へ移動表示させます。

■ ：再生･録音を止めます。

❚❚ ：再生･録音を一時停止します。

▶ ：再生･録音（録音一時停止から）を始めます。

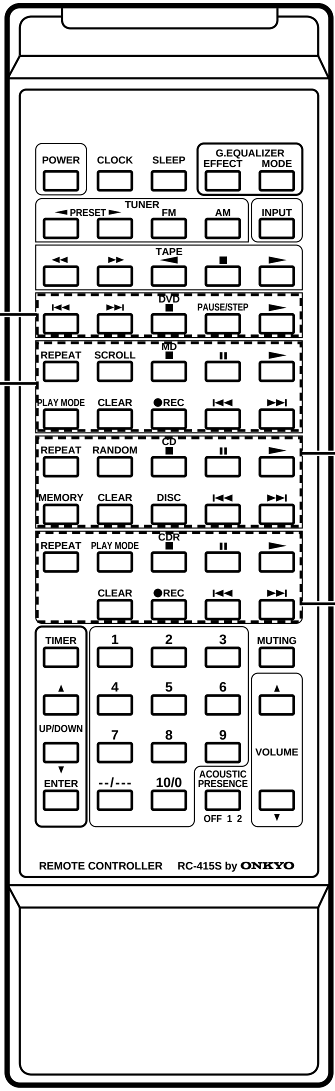
▶▶| ：次の曲の頭出しをします。

|◀◀ ：再生中の曲または前の曲の頭出しをします。

●REC ：録音するときに録音待機状態にします。

CLEAR ：記憶した曲を取り消します。

PLAY MODE ：再生モードを切り換えます。



CDプレーヤー操作ボタン＊

REPEAT ：演奏をくり返します。

RANDOM ：曲をランダムに演奏します。

■ ：演奏を止めます。

❚❚ ：演奏を一時停止します。

▶ ：演奏を始めます。

▶▶| ：次の曲の頭出しをします。

|◀◀ ：演奏中の曲または、前の曲の頭出しをします。

DISC ：CDチェンジャーに使える機能で、演奏するディスクを選びます。

CLEAR ：記憶した曲を取り消します。

MEMORY ：演奏する曲の順序を記憶します。

CDレコーダー操作ボタン＊

REPEAT ：再生をくり返します。

PLAY MODE ：再生モードを切り換えます。

■ ：再生･録音を止めます。

❚❚ ：再生･録音を一時停止します。

▶ ：再生･録音（録音一時停止から）を始めます。

▶▶| ：次の曲の頭出しをします。

|◀◀ ：再生中の曲または、前の曲の頭出しをします。

●REC ：録音待機状態にします。

CLEAR ：記憶した曲を取り消します。

アフターサービスについて

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(A-909X)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では、本機の補修用性能部品を製造打ち切り後、最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

オンキヨーサービス網一覧表

万一お困りの場合は、下記の窓口へご相談ください。

●**製品の故障や修理についてのお問い合わせは、下記のサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。**

修理をご依頼になる前に、この取扱説明書の「故障？と思ったら」の項をご確認のうえご依頼ください。

札幌サービスステーション	☎ 011-747-6612	〒001-0028	札幌市北区北28条西5-1-28 トーシン北28条ビル
仙台サービスステーション	☎ 022-297-0571	〒984-0051	仙台市若林区新寺4-9-5 第二丸昌ビル 1F
大宮サービスステーション	☎ 048-651-8612	〒330-0034	大宮市土呂町2-29-2 高安ビル 1F
宇都宮サービスステーション	☎ 028-634-4307	〒320-0831	宇都宮市新町2-7-7
東京サービスセンター	☎ 03-3861-8121	〒111-0053	東京都台東区浅草橋3-8-5 31山京ビル 3F
八王子サービスステーション	☎ 0426-32-8030	〒192-0914	八王子市片倉町358
横浜サービスステーション	☎ 045-322-9342	〒220-0072	横浜市西区浅間町1-13 共益ビル5F
名古屋サービスステーション	☎ 052-772-1229	〒465-0013	名古屋市名東区社口1-1001
大阪サービスセンター	☎ 06-6576-7620	〒552-0013	大阪市港区福崎2-1-49
兵庫サービスステーション	☎ 0794-83-7408	〒673-0415	三木市府内町2-5
広島サービスステーション	☎ 082-262-3315	〒732-0057	広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	☎ 087-868-5662	〒760-0079	高松市松縄町44-8 西原ビル1F
福岡サービスステーション	☎ 092-418-1357	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3-8-19 みなみビル202

●**カタログのご請求や製品については、販売促進部（TEL 072-831-8111）へご相談ください。**

2000年1月現在　　修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：＿＿＿＿年＿＿月＿＿日

ご購入店名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Tel.　　(　　)＿＿＿＿＿＿

メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO
HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/

アフターサービスのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

SN29342877

Printed in Japan
G0002-1